

IV. 課題の抽出

1. 史跡としての課題

①「城」らしい景観の欠如

廃城時に盛岡城の特徴的な建物（虎口、廊下橋等の建造物、筋違橋、舟入等）の数多くが失われたこと、明治時代の公園整備の際に虎口や土塁等の城郭として重要な遺構が撤去または改変されたこと、樹木の繁茂により盛岡城跡のなかで最も「城らしさ」を感じさせる遺構である石垣を眺望できる箇所が限られている。

このため、中心市街地に存在する城郭としての歴史的象徴性に欠ける状況となっていることから、調査研究に基づいた、遺構の復元、表示、解説等を行っていくことが必要である。

②石垣の変位（38 頁第 21 図参照）

石垣変位調査の結果、腰曲輪南西部（A・B）、三ノ丸北部（E・F）、三ノ丸南東部（G）の3地区について変位累積が大きくなっており、震度5以上を記録する大きな地震の際に、三ノ丸北東部のように比較的大きな変位が観測された箇所もみられる。

現在のところ、平成13年度に緊急修理を行った吹上門坂石垣（明治の公園整備の際に積まれた箇所）ほどの変位量ではないことから、通常の経年変化の中では数年内に崩壊の危険があるとは考えにくい。大きな地震が発生した場合は、他の箇所より崩落の危険性が高いと推察される。また、腰曲輪南西部は、観光バス駐車帯からの主要観光ルートにあり、景観的にも来園者の不安を招きかねない状態である。災害時の広域避難所としての利活用等といった観点からも、修理が必要である。

③特徴的な遺構の改変・撤去

廃城時や明治時代の公園整備、戦後の開発等により、盛岡城の特徴的な遺構（虎口、廊下橋等の建造物、筋違橋、舟入等）は数多くが失われている。本丸・腰曲輪と二ノ丸を繋いで一体的な空間として利用していた特徴的な配置をもつ建物は、廃城後にすべて払い下げが行われ撤去され、城郭の重要遺構である虎口も、鳩門や櫓形門、米内蔵門の虎口が撤去され、吹上門虎口は改変されている。内堀は特徴的な筋違橋、舟入が埋め立てにより消滅した他、残存部も戦後の都市計画道路「大通中ノ橋線」建設に伴い、堀跡に盛土がなされたことにより堀跡の連続性が遮断され、城本来の姿や堀の機能がわかりにくい状況となっている。土塁も櫻山参道地区北東部に残存する土塁等、一部を除き消滅した部分が多い。

盛岡城跡の近世城郭としての特性を表し、城としての象徴性を高めていくためにも、調査・研究に基づいた遺構の復元、表示、解説等を行っていくことが必要である。

④内堀および土塁の保全

内堀は戦後の都市計画道路「大通中ノ橋線」建設に伴い、堀跡に盛土がなされたことにより堀跡の連続性が遮断され、城本来の姿や堀の機能がわかりにくい状況となっている。また、堀跡の法面については、大半は低木の植栽がなされているが、成長した高木が眺望を遮断したり、

一部倒木となる恐れがあるものも見られる等、景観の維持や安全性の確保などを目的とした植生管理が必要となっている。

水質についても悪化が懸念され、浄化装置の稼働と併せて中津川からの水量の確保や日常の清掃、沈殿している落ち葉の除去や、物理的に汚泥等を除去する方法（浚渫・池干し）等について総合的に検討する必要がある。

⑤彦御蔵の整備活用

彦御蔵は現在、城内に存在する唯一の藩政時代の建造物である。現在は、積極的な活用がされておらず、彦御蔵が位置する腰曲輪下南地区も公園の維持管理のためのバックヤードのようになっており、来園者も少ない状況である。

彦御蔵の整備活用により盛岡城跡の歴史的建造物の様子を来園者に公開し、あわせて周辺の環境整備も図っていく必要がある。

⑥調査研究の推進

盛岡城に関する史・資料については、城絵図や城下図のほか『盛岡藩家老席日記雑書』など、当時の様子や遺構の変遷を知ることのできる史料が現存している。

しかしながら、各種史・資料調査が継続的におこなわれていないことから、積極的に盛岡城の歴史的な価値を周知する取り組みとともに、城内建築物の復元につながるような未発見の史・資料の調査も積極的に行うことも必要である。

これまでに行われた発掘調査については、主に石垣修理に伴う記録保存を目的とした調査であり、調査範囲も限定的であることから、門や御殿等の建物跡が存在すると想定される範囲や明治期の公園整備の際に改変を受けた範囲を中心に、遺構の構造を明らかにするための発掘調査（遺構確認調査）を実施する必要がある。

2. 公園および観光資源としての課題

①近代公園としての文化的価値の保全

長岡安平の設計による明治時代の公園整備以降、公園としての保全を図るための維持管理が継続的に行われてきたが、花壇の撤去や都市計画道路による池の埋立て、電柱をはじめとする工作物の設置等が行われ、公園としての景観が損なわれている点も見られる。

今後、史跡の保存整備との調整を図りながら、公園として相応しい景観整備を行っていく必要がある。

②植栽の適切な維持・管理

ア. 遺構の保全及び景観の確保との調整

樹木については、来園者に緑陰を提供するという意味においても必要不可欠なものであるが、石垣上部及び石垣面には明治期以降に植樹、または自然発生した樹木が生育しており、石垣に対して悪影響を与えている箇所も見られる。また、周囲の建物や樹木の繁茂により内外からの眺望景観が阻害されているため、城内から岩手山等の「盛岡らしい」眺望景観が阻害されてい

るほか、曲輪の空間的な広がりを感じることができない状況となっている。

併せて、腐朽等が進み倒木の恐れのある樹木も含め、必要に応じて伐採や剪定の措置が必要である。

イ. 古木等の維持・管理

藩政時代に植栽された樹木については、明治時代に払い下げや売却が行われたことからほとんど残存していないが、樹径等から三ノ丸東部及び腰曲輪西側のエドヒガンザクラが藩政時代から残存する樹木と想定される。

明治時代の公園整備の際に植栽されたウメ・サクラについては、盛岡に春の訪れを知らせるとともに、市民の憩いの場としての役割を果たしており、一部で明治期に植栽されたものが残っている。

腰曲輪のサクラや鍛冶屋門周辺地区のウメ等をはじめとして、その場を構成する樹木のあり方として相応しいものについては、保全のための維持・管理を行っていく必要がある。

③公園施設の総合的な再整備

現在の公園施設は老朽化しているものや、歴史的景観を阻害しているものが存在する。また、公園の維持管理のための施設や市民・観光客のためのインフォメーション施設等、現状では対応できない施設の必要性も認められる。

より多くの来園者が利用しやすい公園としていくため、遺構の保全と歴史的景観との調整を図りながら、エリア毎の機能・役割を整理した上で、公園施設の総合的な再整備を検討する必要がある。

3. 活用上の課題

①ソフト事業の展開

盛岡城跡では、一年を通して多くのイベントが開催されているが、より一層盛岡城跡の利活用を推進するためには、市民の関心を高めるとともに、観光客が史跡を訪れる機会を増やす取り組みを行うことが必要である。

盛岡城跡の歴史的・文化的価値を普及・啓蒙するため、遺構確認調査の現地説明会や各種研究成果を公表する機会を設けることや、盛岡城にちなんだイベントの開催等、遺構復元整備や公園施設整備といったハード面の整備だけではなく、今後整備が計画されている施設の活用も視野に入れた事業展開が必要である。

また、四季折々に花を咲かせる植物や様々な樹木、生息する鳥類や昆虫等の観察会等といった、公園としての利用を高めるための継続的な取り組みも必要である。

②もりおか歴史文化館との連携の強化

もりおか歴史文化館は盛岡城跡を最大の屋外展示物と捉え、盛岡城跡と一体化した運用を図ることで新たな観光スポットとしての活性化を図ることを大きな目的の一つとしている。この目的を達成するために、今後、屋外展示機能を強化するとともに、インフォメーションのあり

方や、アクセス性の向上や見学ルートの設定等を検討していく必要がある。

③周辺の歴史遺産等とのネットワークの強化

史跡と密接に関係する城下町の範囲については、『盛岡市歴史文化基本構想』において「歴史文化保存活用区域」に指定されており、盛岡城跡を中核に、盛岡城外曲輪跡や遠曲輪跡、武家住宅や商家、町屋、近代化遺産等の歴史遺産について積極的に保存活用を図る範囲に位置付けられている。よって、当史跡のみの事業展開にとどまらず、周辺に所在する文化財等の歴史遺産等を巡り、楽しむことができる散策コースの検討、パンフレットやサイン等の再整備を行う等、歴史遺産相互のネットワークを強化するとともに、回遊しながら歴史を学習できる機能を充実させる必要がある。

4. 組織体制・維持管理上の課題

1) 整備事業の拡大等に伴う組織体制整備

本整備計画の策定に伴い、相当量の整備事業を長期にわたって推進する必要があるため、専門的な組織体制について検討する必要がある。また、新たな施設や建物の復元整備等がなされた場合等、必要に応じた管理体制を検討する必要がある。

2) 維持管理業務上の課題

盛岡城跡公園は、現在指定管理者により除草や清掃、施設の維持管理がなされているが、老朽化した施設に関しては、通常の維持管理の限界も散見される。